道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK

☆三好礼子の☆ ナチュラル・ロード

半年かかった竹林美化が終了。光の羽根はご褒美かな♪

三好礼子
エッセイスト・元国際ラリースト
～http://www.fairytale.jp/～

現在75名の新型コロナウイルス陽性感染者が出ている長野県では、「新しい生活様式」への移行準備期間となっています。例年、楽しい大型ツーリングイベントがあった5月末は、移行推進期間。県域をまたいだ移動の自粛は今のところそこまでですが、その先は「収束を願いつつも、誰も予想できない」という未曾有の状態が広がっており、まさに地球規模でニューワールドへ突入しました。

都心部などとは比べ物にならないでしょうが、松本の我がカフェも徐々に自粛を始めました。3密対策をすると共に4月8日からは長野県外からの来店者をお断りし、「緊急事態宣言」が全国に発令された翌4月17日から5月6日までは臨時休業。日本中からライダーがやってきて、ワイワイと情報交換して笑いっぱなしが楽しかったカフェだったので、マスクして離れてあまり喋らずというのはなんとも辛いものがありましたが、クラスター発生と他府県ナンバーが止まっている状態は避けたかったので、思い切って休みにしたら…なんだかホッ。目に見えないだけに、緊張感あったんだなあと改めて自覚した次第。

勝手にやってきた20日間の休業という名の日常は、田舎ならではの過ごし方となりました。昨年10月の台風災害あたりから毎日やり始めた伐採・剪定・草刈りなど自宅敷地（牧場として借りたので、山を入れないと2千坪ほど）の手入れ作業はエンドレス。好きなだけ朝から晩まで大地と向かっていると、さらに自然の声が聞けて、楽しくて寝食を忘れるほどでした。濃厚接触は、ジムグリ（蛇）とヒキガエル。大家さんの庭造りは本格的で、梅と桜と桃だけでも色と種類が様々な大木が7本もあり、開花から散り終わるまでを堪能することができました。2回ほど伐採枝などを軽トラックに積んで市のクリーンセンターへ持ち込んだのですが、スーパー以上に混み合っていてビックリ。自粛中は園芸や家庭料理がブームだったようですが、「片付けと断捨離」が断トツのトップだったのではないでしょうか？

田舎暮らしがこれからさらに増えるのではと思わせたのは、濃厚接触が難しいこと。毎日一回夫婦ジョギングしていましたが、たまに会うのはご近所のワンコ散歩だけ。誰にも会わないで暮らせる空間や、自給自足に向かえる畑や田んぼって、改めてすごいなと感じました。実際電話だけで仕事をしているIターンの方もいますが、テレワークがもっと増えれば、移住希望者も増えること間違いなさそうです。

さて、とりあえず長野県限定で5月7日から始まったカフェですが、常連が多く、ついつい熱く語りたくなるお客様に気づいてもらえるように、「2m厳守」と書いたコーヒーカップを作ってみました。まさかそんなデザインを描く時が来るとは思わなかったけれど、それをも含めて、今までのやり方や在り方は、当たり前でも不滅でもなく、むしろバブルにも似た調子の良さの中にあったのかも？と反省しきり。日本中からライダーが来ることも、心のどこかで慣れていたような気がします。食べてくれたり、初めて同士がすぐに仲良くなったり、お土産（話や物）をいっぱいもらったりすることも、未来永劫とは思わないまでも、少なくとも年老いてランチが運べなくなるまでは続く気がしていました。おごりというよりは、感謝の気持ちが足りなかったかも。

毎年庭で満開に咲く桜たちだって、日々忙しかったのでその下で花見するなんてことは、一度もありませんでした。そう、本当に忙しかった（多くの人がそう？）。ツーリングしたり、動物の世話したり、デスクワークやカフェ運営するだけで、毎日200％詰まっていたし、忙しかったので買い物はネットでバンバン。それも楽しいことだったのですが、こうして静かに立ち止まってみれば、別の角度から目にするものや体験するものの本質や、自分の素直な心の在り方や未来への思いがみえてきます。

万人に影響がある新型コロナは過酷で残酷だし、まだ終わりは見えないのですが、あくまで自分個人としては「気づかされた20日間」だったかもしれません。ありがとうコロナとは言いたくないけれど、立ち止まったことで自分たちが発令した「新しい生活」には、悩みながらもすんなり行けそうです。がんばれ自分。がんばれみんな。がんばれ地球。

野良仕事の合間に桜や桃を愛でながらお弁当ランチ。桃源郷は庭にあり。

私は野良担当。店のDIYしながらトライアルセクション置いて遊ぶ夫。

Protect you and me. タンデムシートのヤギも2m離してみました。

外は塗装、中は机の配置換え。再開後の一番乗りは前山さん。

ある意味、マスクにも外テーブルにも慣れているライダーたち。

都市計画の中の道路（特別編）
ポストコロナの都市と街路

東洋大学国際学部・准教授
志摩憲寿

近代都市計画は、産業革命下のロンドンで蔓延したコレラ対策にその起源があることはよく知られています。新型コロナウイルス感染症もまた、都市や街路のありようを捉え直す一つの契機となるかもしれません。まだまだ先の見えないところではありますが、国内外の動きを交えつつ、都市計画の扱う空間軸・時間軸の中でポストコロナの都市と街路について考えてみたいと思います。

緊急事態宣言の続く東京主要駅では、昨年度と比較して改札通過人数8割程度減少とステイホームの効果が現れているようですが、緊急事態宣言後この状況はどのように変われるでしょうか。諸外国の動きもみてみたいと思います。

都市封鎖を緩和しつつあるイタリアのミラノでは、バスや地下鉄といった公共交通が感染拡大の原因であるとした上で、メトロシステムの輸送能力を以前の3分の1にまで減少させ、車内にはソーシャルディスタンスを保つ乗車位置のマーキング等の対応をとり、また、自宅勤務の継続や通勤・通学の見直しを進める方向で動いています。その一方、大気汚染と感染症死亡者との相関関係が取り沙汰される中で、国内最悪レベルとも言われる（ミラノを含む）イタリア北部において、自動車利用は強く抑制したいところでもあります。海の向こうアメリカからは経済活動の一部再開に伴う自動車通勤増加のニュースも聞こえます。

ここでミラノ市当局は、市内道路の35キロメートルを自転車・歩行者優先とし、中心市街地における自動車の最高速度を30キロ／時に抑えるという方針を打ち出しました。また、同様の動きは、ミラノだけでなく他のヨーロッパ都市でも見られます。ブリュッセルの中心市街地では自転車と歩行者の優先、バスやトラムを含む自動車は20キロ／時を超えてはならないとされました。道路の真ん中を歩くことができる歩行者には、これにより、ソーシャルディスタンスを保つことができるという訳です。また、パリでは、アンヌ・イダルゴ市長が「自動車に帰ることはあり得ない」と強い姿勢を伺わせ、パリ市民の誰もが仕事、買物、医療や文化といったあらゆるニーズに15分で到達できるよう、彼女の提唱する「15分のパリ」という市街地再編を目指す動きもみられます（図）。

但し、これら一連の取り組みは必ずしも新しいという訳でもありません。ブリュッセルでは、自動車の速度抑制（但し30キロ／時）にはコロナ以前から着手しており、自転車優先もベルギー国内ではアントワープなどに続くものでした。ポストコロナの都市のありようをめぐっては、むしろ、従前からの自動車抑制＋自転車・歩行者優先の取り組みが大きく進められたという訳で、従来の取り組みに対して歩行者等の優先化によりソーシャルディスタンスを確保するという新たなねらいが加わったということになるでしょう。さて日本ではどう動くでしょうか。

図　アンヌ・イダルゴ市長の提唱する「15分のパリ」（出典：CITYLABウェブサイト）

参考文献：CITYLAB（https://www.citylab.com）、内閣官房「新型コロナウイルス感染症対策」（https://corona.go.jp）いずれも2020年5月11日参照

ハッと思いました

「皆さん、GWはいかがお過ごしでしたか？」と言うお決まりのフレーズも、今年はかなり意味合いが違ってしまいました。かつて「2020年5月の月・」とノストラダムスの大予言に書かれていたかの様な事態が続いてます。

しかし、予言はお遊びの範疇で笑えますが、ウイルスの感染拡大は現実として襲い掛かってきますので、気を許す事が出来ません。

ここ数ヶ月、いろんな人々の発言があり、数多くの人間性を垣間見ることになりました。内容の善し悪しは置いといても、なんと好き勝手な考えをしている人が多い事やら。

現状を「人類とウイルスとの世界的な戦い」であると、どれ程の人が自覚しているのかと、首を傾げてしまいます。緊急事態であるのに、何故、補償？。人命より経済なのか？。緊急事態宣言は単なる言葉なのか？

近年、数多くの大規模災害に遭い、国を挙げて乗り越えるために一丸となっていたと、思っていましたが、見間違っていたようです。ワン・チームも大規模ではワンには なれないのでしょうか。

じっとしていると、いろんなことを考えてしまうようで、個人の意見として流してください。

状況の改善には時間がかかる「長丁場」。「新しい生活様式」を確立し、受け入れなければならないのは必至。私に出来ることは、手洗い、マスク装着、横並び、フィジカルディスタンス確保、そしてステイ・ホーム。

今後、人の移動が復活してくると、3密を避け大量輸送機関よりも個別移動、つまり自家用車による移動が以前より増えるのではないかと想像しています。道路交通に関しても、新しい移動様式が求められるのでしょう・・か？